

単元名:北京でおいしいランチを食べよう

科目名	中国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年/年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	食	言語レベル	1	必要時間数	8時間

I 単元目標

北京への語学研修の自由時間を利用して、事前に調べたお目当てのレストランで注文して食事をすることができ、料理の味や感想をクラスで報告し、それをまとめて北京のグルメマップを作ることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる	😊	😊	😊			
できる	😊	😊	😊	😊	😊	😊
つながる	😊					

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆従業員を呼んでメニューをもらい、メニューを指差しながら従業員に料理を注文することができる。</li> <li>◆食べたい料理がメニューにない場合、あるかどうかを店員に聞き、食べ終わってから会計を済ませて店を出ることができる。</li> <li>◆王府井で店の看板や案内図を見て理解することができる。</li> <li>◆自分たちで王府井の地図を描きリストアップした店を書き入れることができる。</li> <li>◆気に入った料理の味や値段をメモすることができる。</li> <li>◆帰校後、グループごとに自分たちのお勧め料理について、写真を見せながら味や感想を含めて簡単に報告することができる。</li> <li>◆各グループのお勧めメニューや感想をひとつの地図に書き込み、王府井グルメマップを作ることができる。</li> <li>◆ボディランゲージも動員して店員とやりとりすることができる。(コミュニケーション・ストラテジー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中華料理の種類・特徴を理解することができる。</li> <li>◆料理の値段について比較することができる。</li> <li>◆中華料理店での注文の仕方、食器、食べ方、テーブルの設定などに着目し、日本料理店の場合と比較検討することができる。</li> </ul> <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆店や値段をインターネットや本で調べることができる。(情報活用)</li> <li>◆グループで計画を立てることができる。(協働)</li> <li>◆外食と人びとの生活との関係について考える。(知識理解)</li> </ul> <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>

<p>コミュニケーション能力指標</p>	<p><b>【食】</b></p> <p>1-a.お店の看板(レストラン、食堂、ファストフードなど)を見て理解できる。</p> <p>1-b.レストランなどで、従業員を呼ぶことができる。</p> <p>1-c.必要なもの(メニュー、箸、皿、紙ナプキンなど)を、要求することができる。</p> <p>1-d.食べたいものや飲みたいものを、メニューのなかから探すことができる。</p> <p>1-e.メニューを指して、数量や有無を確認しながら注文できる。</p> <p>1-f.料理の味や状態についての簡単な感想(おいしい、甘い、辛い、薄い、熱いなど)を述べたり、受け答えをしたりできる。</p> <p>1-h.お店で食事の会計をすることができる。</p> <p>1-i.食べたい料理やおいしいと思った料理、行きたい店や気に入った店の名前などを、メモできる。</p> <p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>
----------------------	---

II 評価

学習を助けるための評価 (形成的評価)	目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆食べたい中国料理のリストを作り、中国語を調べる。(記述の正確さ)</li> <li>◆王府井にどんな飲食店があるかネットやガイドブックで調べ、中国語を調べる。(ツールの効果的使用)</li> <li>◆メニューをもらい、従業員に注文する、会計を済ませるなどのロールプレイを行う。(発話の適切さ、発音の正しさ、対話のスムーズさ)</li> <li>◆考えられる料理の感想をリストアップし、感想を述べあうペア練習をする。(積極的に感想を伝える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校に戻ってグループごとに自分たちのお勧め料理を、写真を見せながら味や感想を含めて簡単に報告する。(発話のスムーズさ、発音の正確さ)</li> <li>◆各グループのお勧めメニューや感想をひとつの地図に書き込み、王府井グルメマップを作る。(見やすさ、わかりやすさ)</li> </ul>

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
<p>◆食べたい中国料理のリストを作り、中国語を調べる【1-i】</p> <p>◆王府井にどんな飲食店があるかネットやガイドブックで調べ、中国語を調べる【1-a】</p> <p>◆メニューをもらい、従業員に注文する、会計を済ませるなどのロールプレイを行う【1-b,c,d,e,h】</p> <p>◆予想される料理の感想をリストアップし、感想を述べあうペア練習をする【1-f】</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p>&lt;場面状況&gt; G高校では、北京短期研修の自由行動の時間にグループごとに王府井で昼食をとることになった。</p> <p>&lt;活動の流れ&gt; 出発前に4、5人のグループごとに中華料理の種類・特徴を調べ、食べたいものを決めてリストアップし、インターネットやガイドブックでそれらが食べられそうな店を探す。決めた料理を中国語で何と調べる。自分たちで王府井の地図を描きリストアップした店を書き入れる。 王府井に着いたら、店の看板や案内図を見てお店を探して入る。従業員を呼んでメニューをもらう。メニューを指差しながら従業員に料理を注文する。食べたい料理がメニューになかったら、あるかどうかを店員に聞く。食べ終わったら、会計を済ませて店を出る。気に入った料理は味や値段をメモして写真を撮っておく。お店にどんなお客さんが多かったかを観察し、それはなぜなのかについても考える。 帰国後、グループごとに自分たちのお勧め料理について写真を見せながら味や感想を含めて簡単に報告する。各グループのお勧めメニューや感想をひとつの地図に書き込み、王府井グルメマップを作る。お店の客層についての印象も書き加える。</p> <p>ヒント☞ ◆現地に行けない時は日本国内で中国語を使って食事できる場所に実際に行ったり、教室の中でロールプレイを行なう。</p>	
<p>&lt;使用教材・教具&gt; 北京ガイドブック、インターネット、北京地図、中国料理に関する書籍</p>		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<p>&lt;表現&gt; 有芒果布丁吗？/非常好吃。/太辣了。/我饿了。/吃饱了。/服务员！/有菜单吗？/我要这个。/有麻婆豆腐吗？/我喜欢。/真好吃！/好喝！/买单。/结账。/请打包。/我早上吃面包。/晚上你吃什么？</p> <p>&lt;表現のポイント&gt; “有～吗？”、“太～了”、“要”、動詞+“这个”、“喜欢”、“真”、“请”、時点を表す言葉+動詞、“什么”</p>	<p>咕嘟妈咪、主食、米饭、面包、饺子、水饺、面条、粥、油条、馒头、小笼包、包子、汤、蔬菜、萝卜、胡萝卜、土豆、青椒、黄瓜、生菜、西红柿、茄子、鸡蛋、豆腐、鱼、螃蟹、虾仁、鱼翅、肉、猪肉、鸡肉、牛肉、羊肉、甜食、汉堡包、冰淇淋、蛋糕、饮料、可乐、雪碧、牛奶、咖啡、红茶、花茶、茉莉花茶、绿茶、乌龙茶、珍珠奶茶、茶叶、矿泉水、小吃、点心、家常菜、北京烤鸭、麻婆豆腐、青椒肉丝、菜单、中餐、西餐、中国菜、日本菜、法国菜、意大利菜、食堂、餐厅、饭店、饭馆、快餐、麦当劳、肯德基、吃、喝、尝、喜欢、要、有、好吃、好喝、酸、甜、苦、辣、咸、烫、凉、盐、糖、酱油、醋、烤、炒、煎、炸、煮、切、剥、筷子、勺子、盘子、大碗、小碗、锅、杯子、茶壶、古老肉</p>	<p>&lt;事象&gt; ◆中華料理の種類・特徴 ◆食べ物の値段 ◆レストランでの注文の仕方、食器、食べ方 ◆外食と人びとの生活</p> <p>&lt;事象のポイント&gt; ◆中華料理の種類・特徴を理解する。 ◆食べ物の値段を比べる ◆レストランでの注文の仕方、食器(中国料理で使う食器、箸など)、テーブルの設定、盛り付け方、食べ方などについて観察し、日本料理の場合との違いを理解し、その背景を考える。 ◆中国の都会などでは近年外食が増えている。経済発展や生活スタイルの変化、従来の食習慣がこの外食の増加現象とどう関係しているかについて考察する。</p>
教室外(人・モノ・情報)との連繫	他教科の内容との連繫	
中国のレストラン、北京の地図、北京のガイドブック	家庭科	